

# 奥秩父縦走報告

2009年1月4日(日)ー9日(金)

メンバー：後藤博志 (M2)

只左一也 (M2)

1日目：塩山駅→(タクシー)→新地平→雁峠→  
雁坂小屋 (幕営)

2日目：雁坂峠→甲武信小屋 (冬期小屋泊)

3日目：甲武信小屋→国師ヶ岳→大弛 (幕営)

4日目：大弛→金峰山→大日小屋 (幕営)

5日目：大日小屋→瑞牆山→大日小屋→大日岩  
→八丁平→小川山南尾根の 2270m 地  
点(小川山から 1.5km 地点) (幕営)

6日目：幕営地→小川山→廻目平→川端下バス  
停→(バス) →小海線信濃川上駅

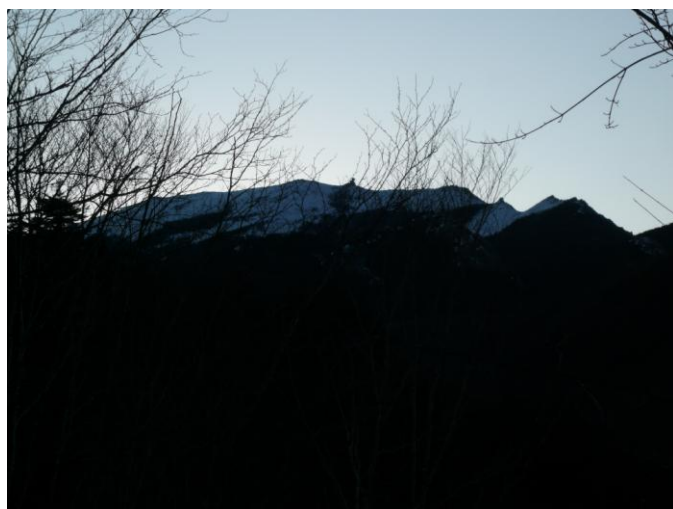
## 5日目 (1月8日(木))

|      |         |         |
|------|---------|---------|
| 起床   | 04:00   |         |
| 大日小屋 |         | 06:00 発 |
| 富士見平 | 06:30 着 |         |
| 瑞牆山  | 08:10 着 | 08:50 発 |
| 富士見平 | 10:30 着 | 10:40 発 |
| 大日小屋 | 11:20 着 | 12:30 発 |
| 大日岩  | 13:20 着 |         |
| 八丁平  | 14:50 着 | 15:10 発 |
| 幕営地点 | 16:50 着 | (幕営)    |

(歩行時間：8時間)



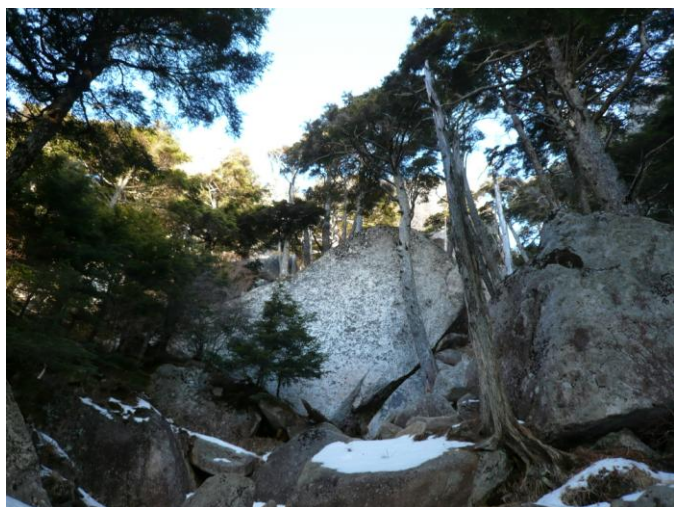
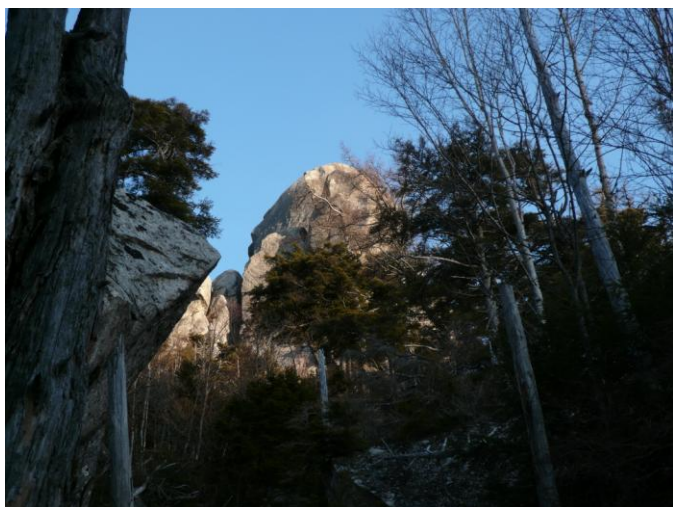
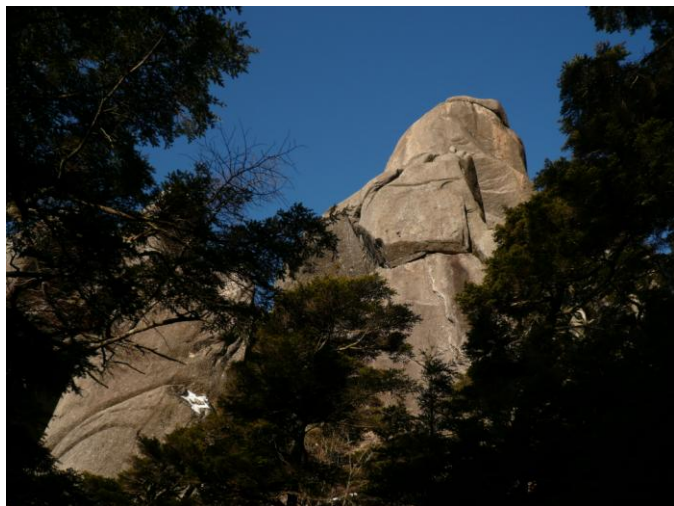
6時に出発。外はまだ真っ暗。



富士見平を過ぎ、瑞牆山への登り道で後ろを振り返る。  
金峰山の五丈岩が目立つ。



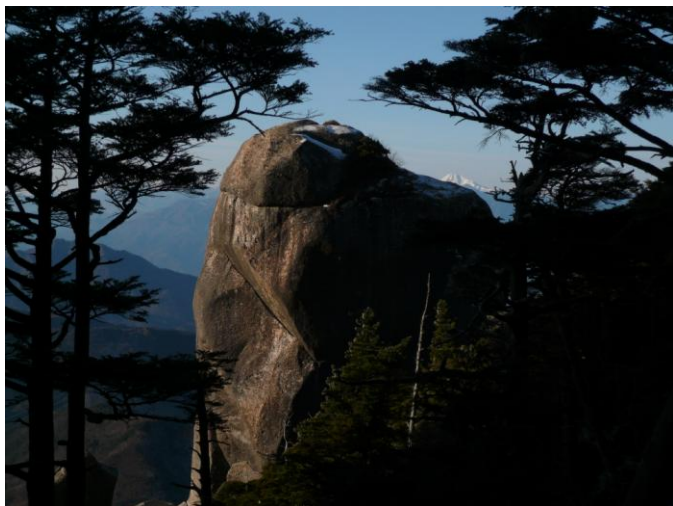
この通り雪はほとんどないが、凍っているところがあり、慎重に登る。



奇岩を仰ぎ見ながら樹林帯の中を登って行く。



大ヤスリ岩の脇を過ぎる



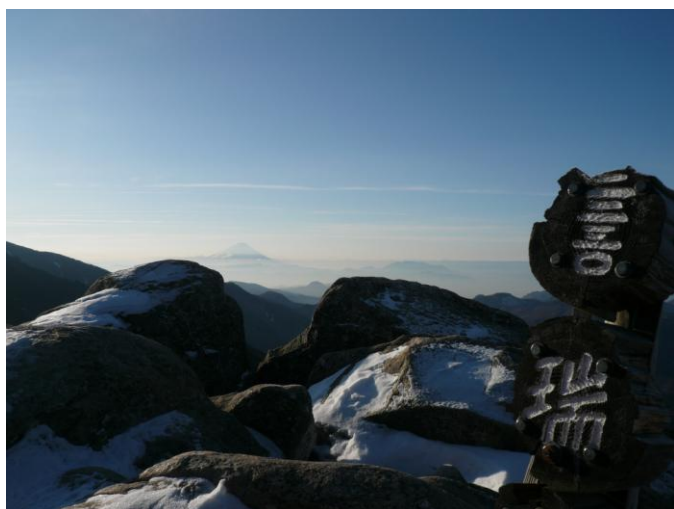
大ヤスリ岩



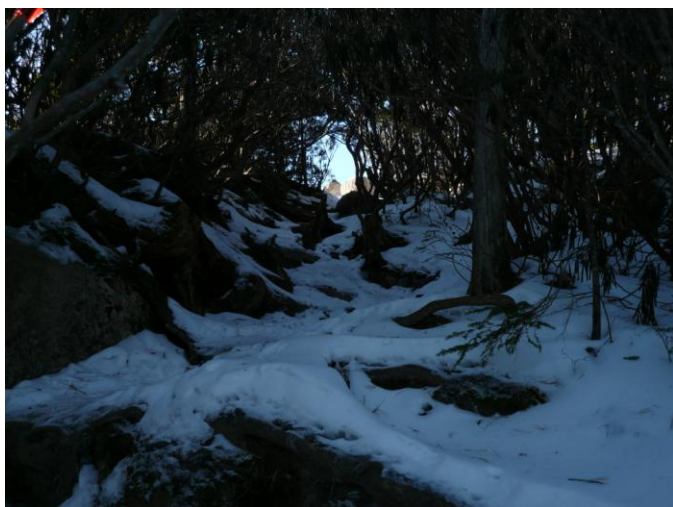
瑞牆山山頂に到着。この日も晴天。



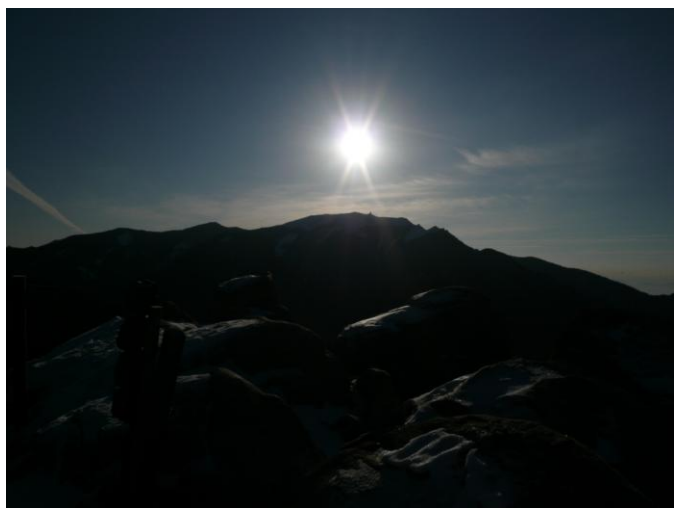
稜線に出た。黒森方面への道との分岐。ここから稜線の北面を巻く。



瑞牆山山頂も開けていて、眺めが素晴らしい。



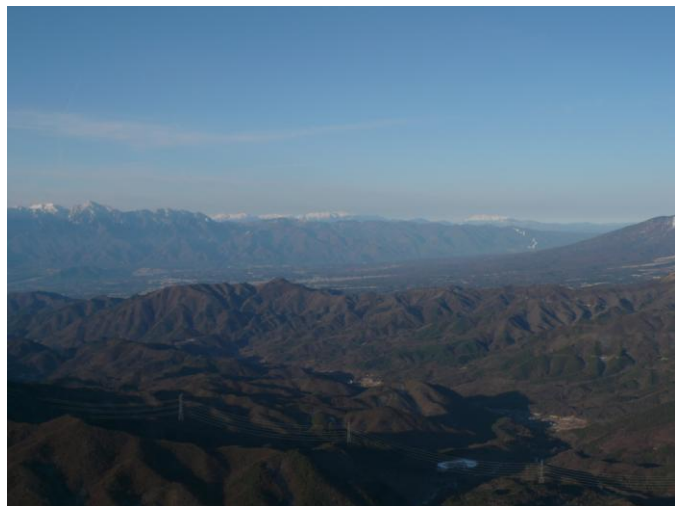
瑞牆山山頂直下



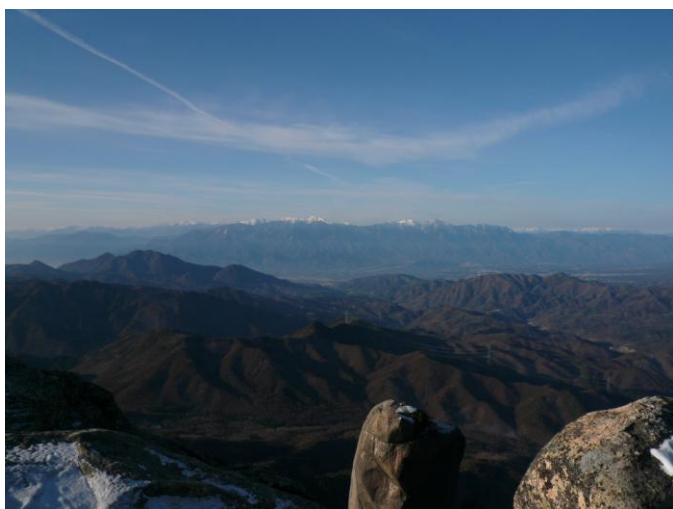
金峰山。8時過ぎだが、まだ陽は低い。



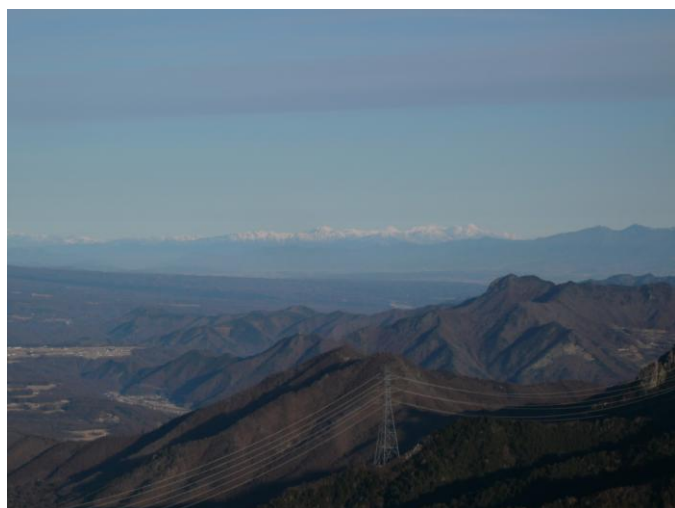
大ヤスリ岩を見下ろす。



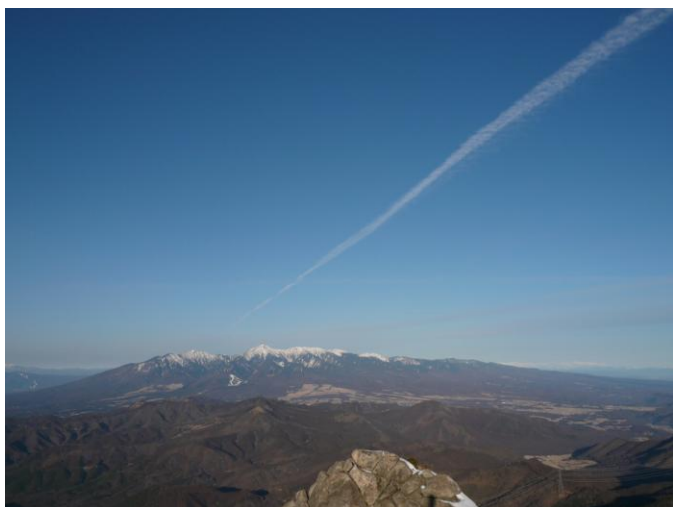
南西の眺め。中央は中央アルプスと御嶽山、左に甲斐駒ヶ岳。



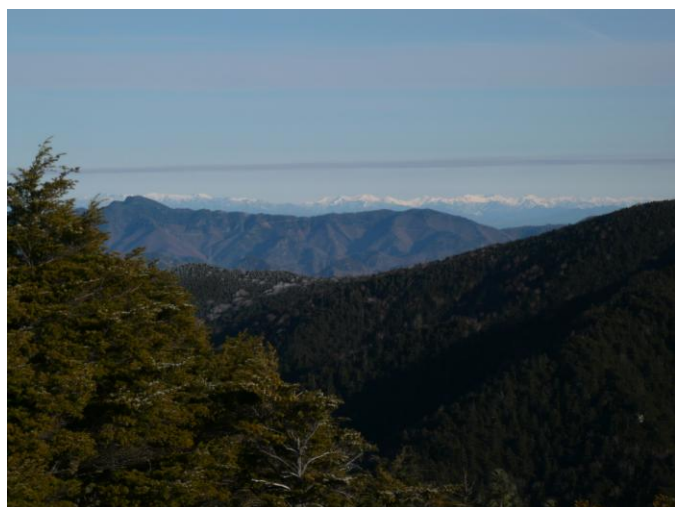
南の眺め。正面は南アルプス。じっと眺めていると、景色の中に吸い込まれそうな感じがしてくる。



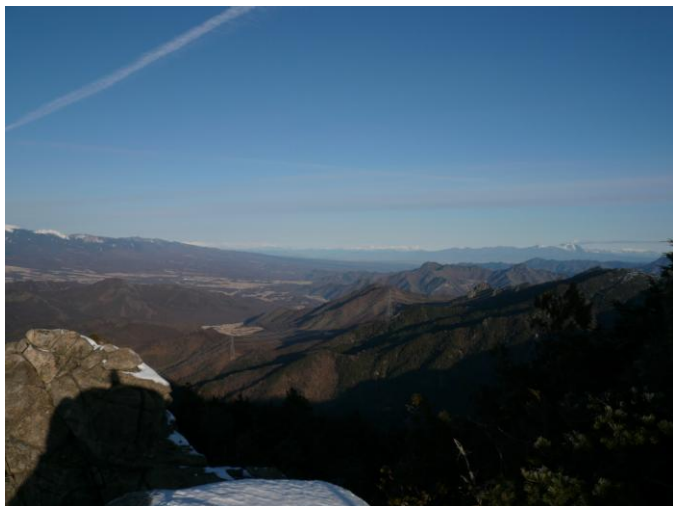
日本海に近い頸城の山々が近くなった。真っ白な山は右から妙高山、火打山、焼山。



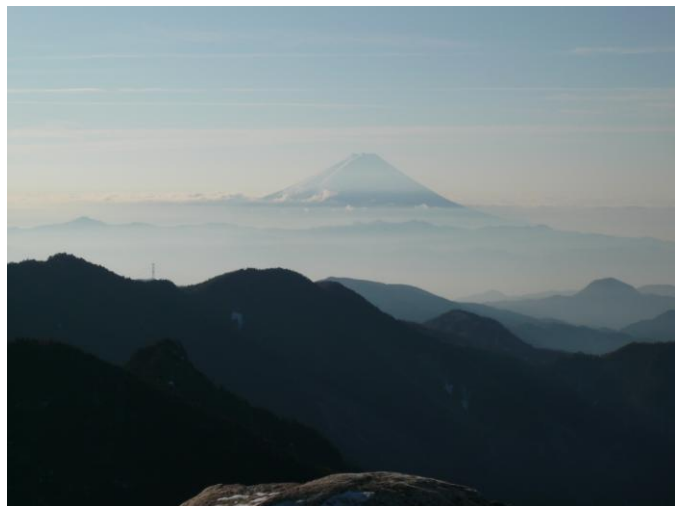
西には八ヶ岳



北東の眺め。谷川や上越の山々が連なる。



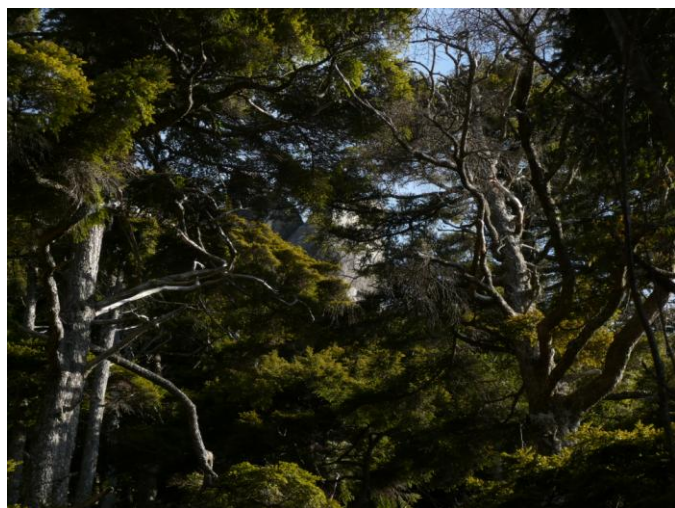
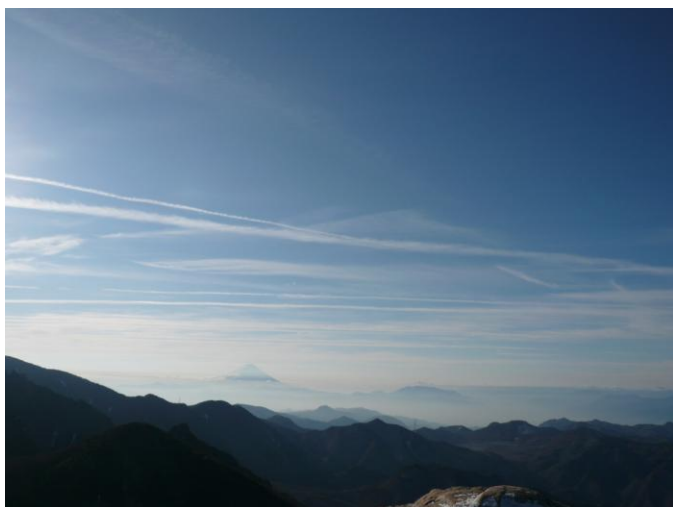
北の眺め。右に浅間山、中央に頸城連峰、その左は後立山連峰。



浅間山山頂から噴煙がたなびく

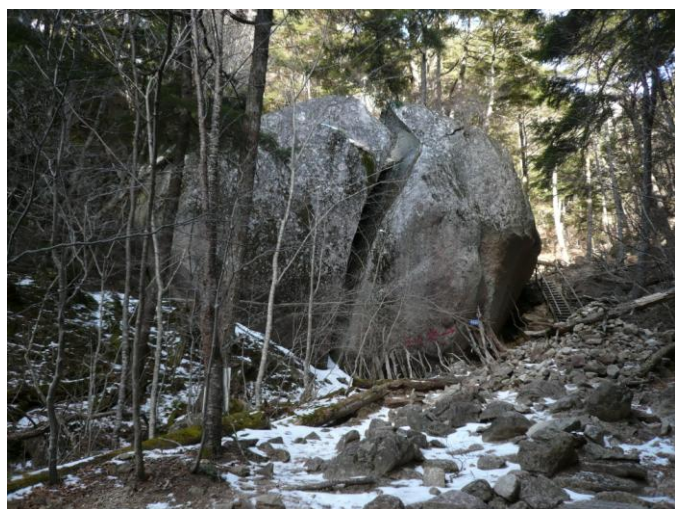
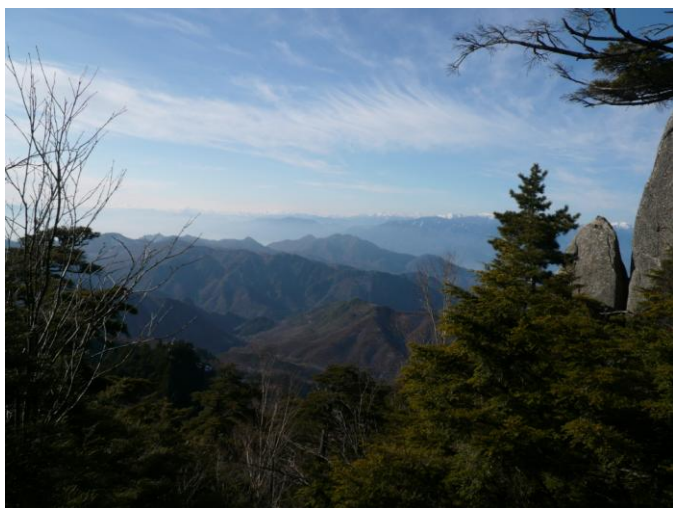
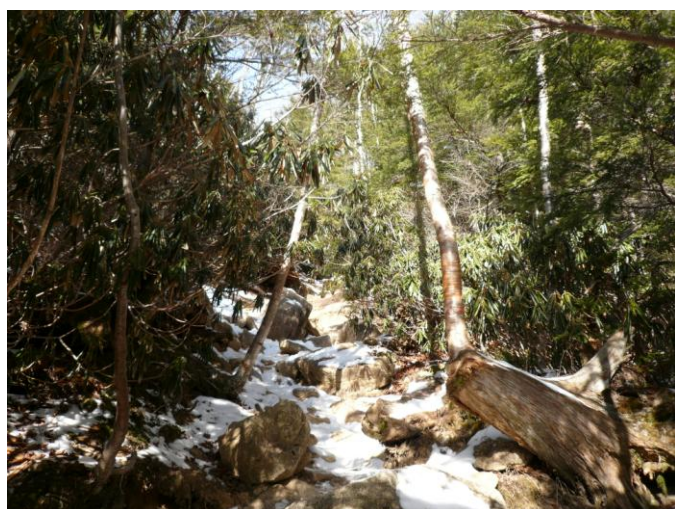


記念撮影。たっぷりと眺めを楽しみ、大日小屋へ引き返す。





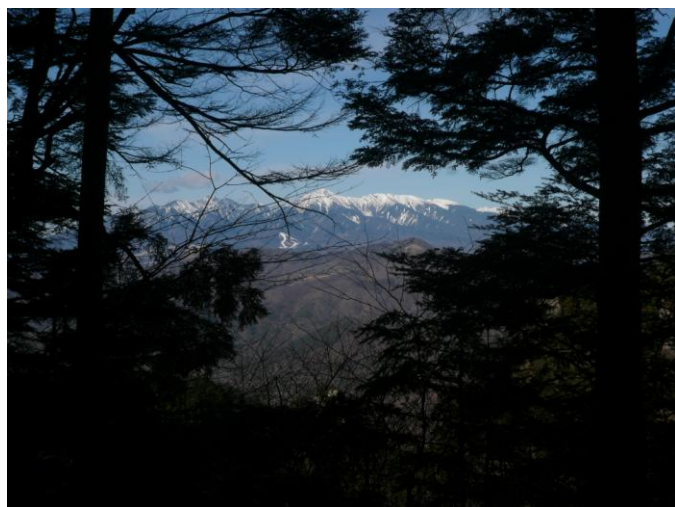
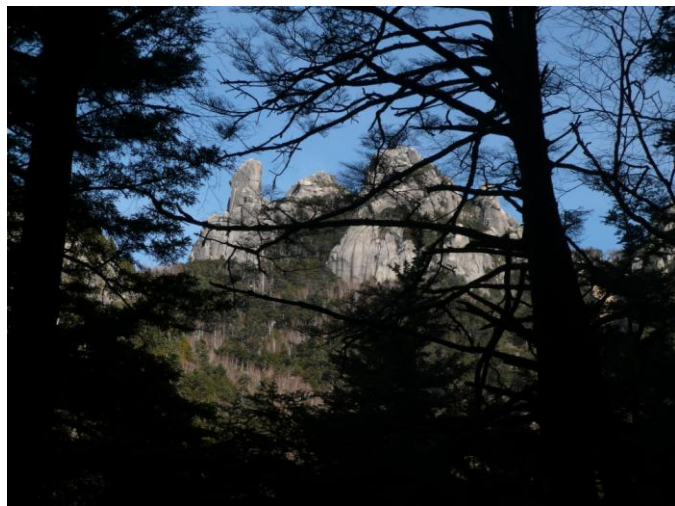
翌日の天気が崩れそうな気配があったので、この日は午前 of 気象情報も聞いた。



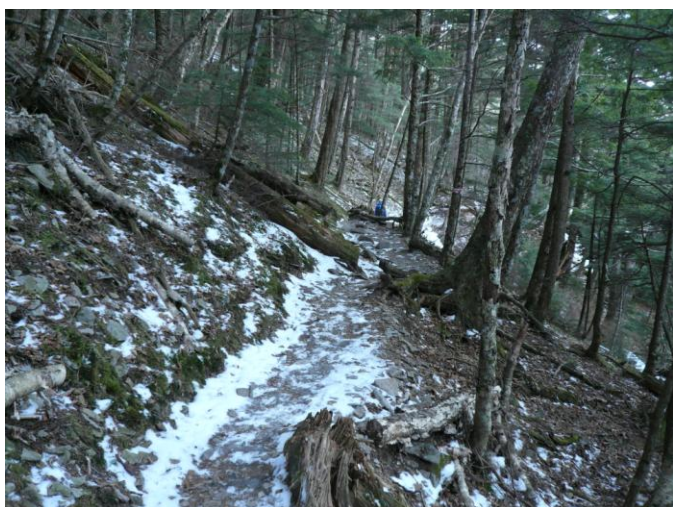
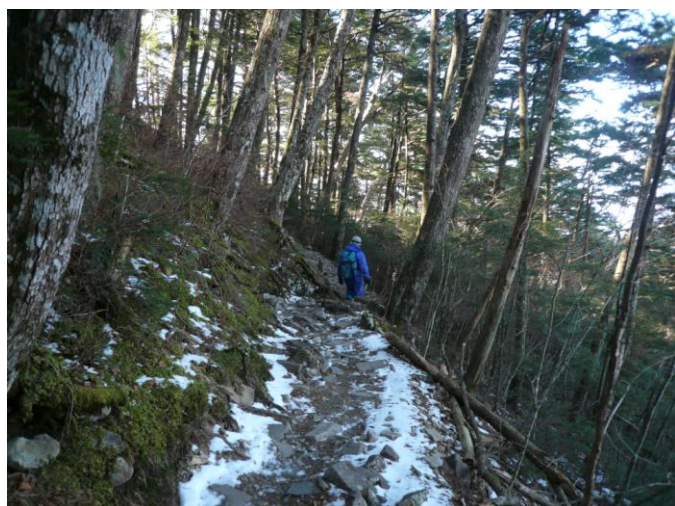
遠くからこの光景を見て、「すごい！岩を突き抜けて樹の根が出ている！」とびっくりしたのだが・・・



岩の下に木の枝がたくさん立てかけられていただけだった…。でもひとつ前の写真、岩の下から樹の根が出ているように見えませんか？

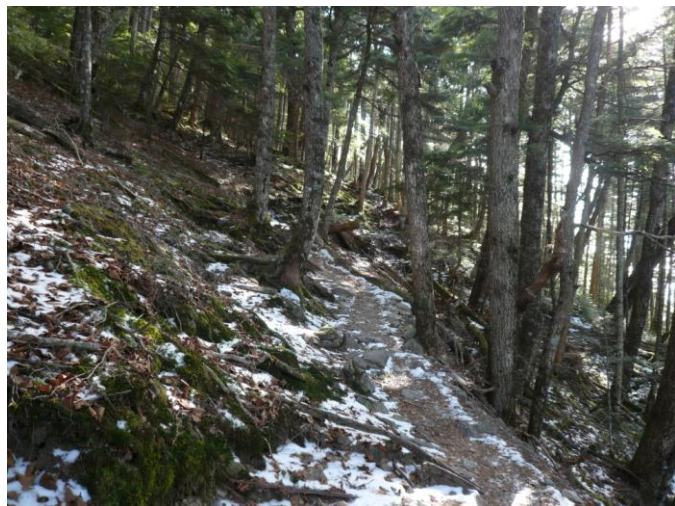


沢を渡る

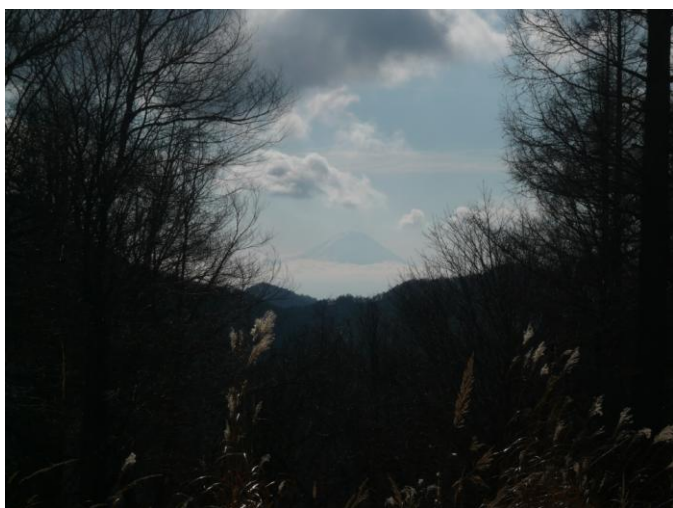




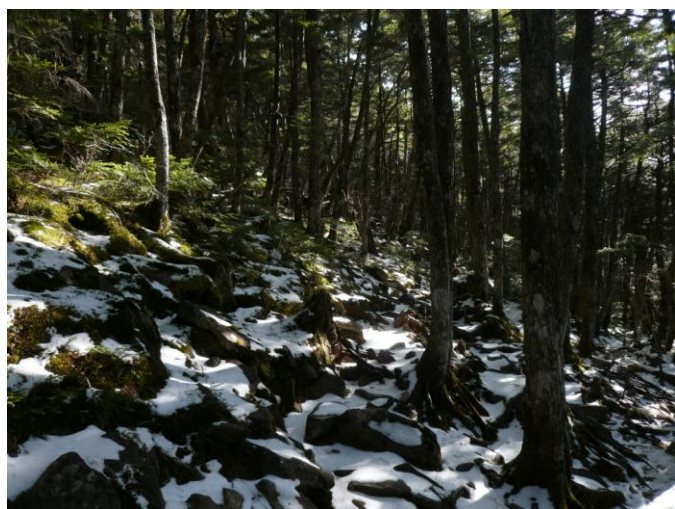
富士見平に戻った。この小屋も、今は無人開放（ただし有料）。



大日小屋へ戻る。雪はほとんどない。



富士見平からは富士山が見える



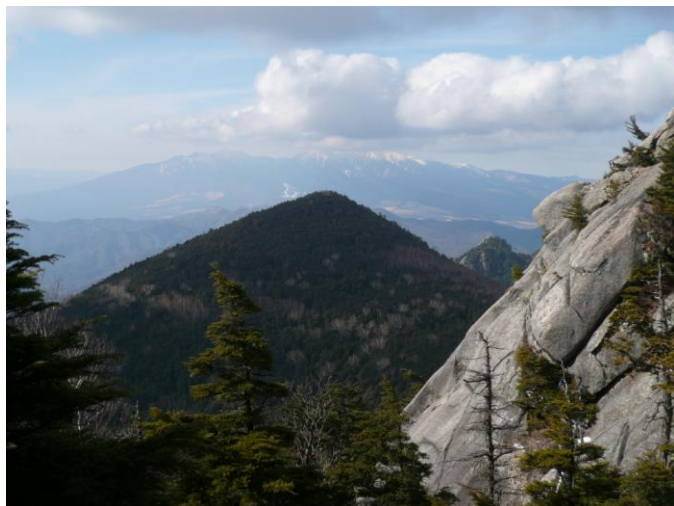
富士見平周辺の樹林も立派



富士見平の水場は冬なのに水量豊富だった。



大日岩



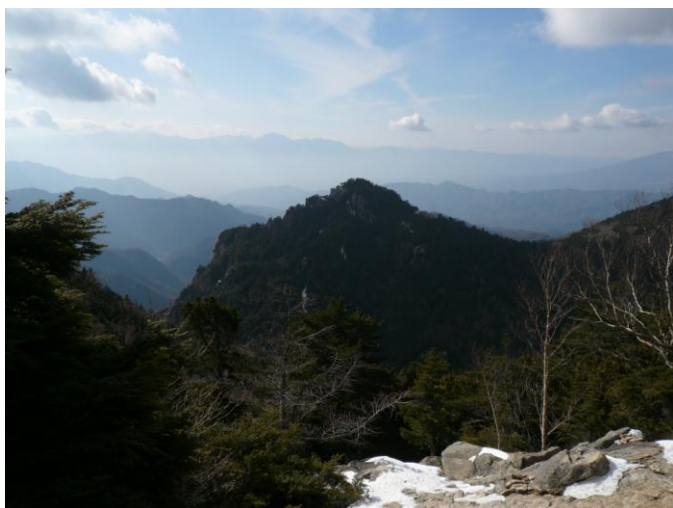
飯盛山。雲が多くなってきたが、まだ陽はさしている。



大日小屋に戻った。再び重い荷物を担いで、大日岩へ。



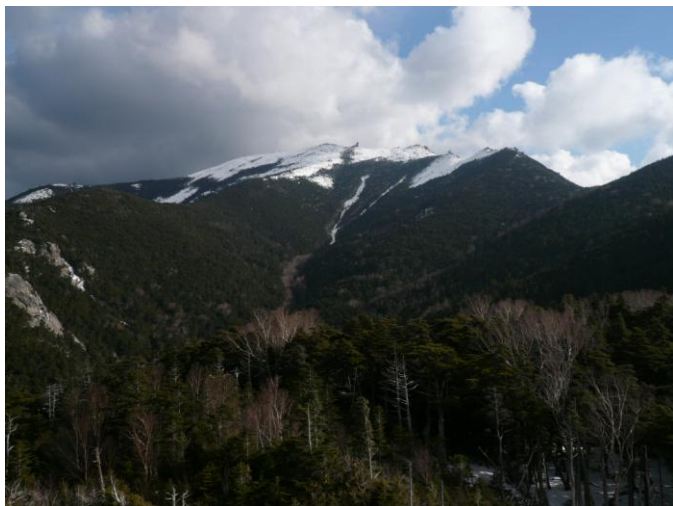
大日岩の分岐点に到着。ここから、小川山へ続く稜線を進む。



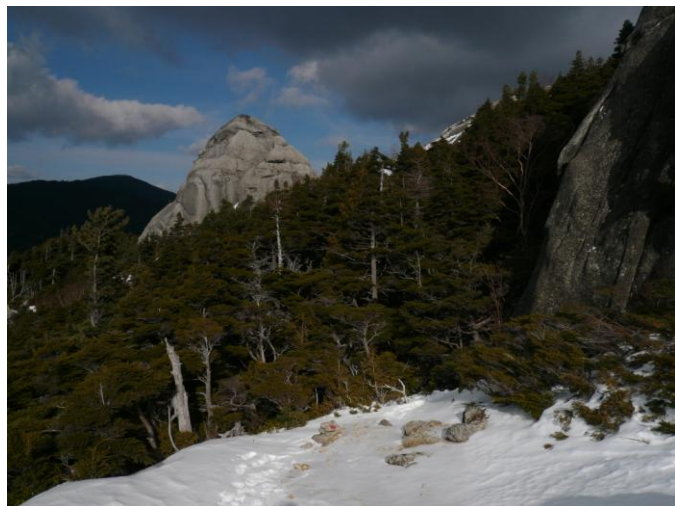
瑞牆山往復はほとんど空身で行ったので、再び担いだザックが重く感じられる。ときどき後ろを振り返り、景色を眺めながら一息つく。ピークは鷹見岩。



大日岩を超える。



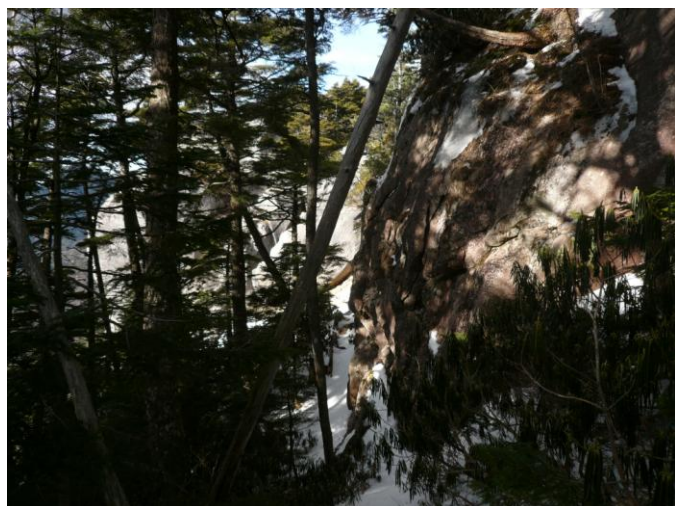
金峰山



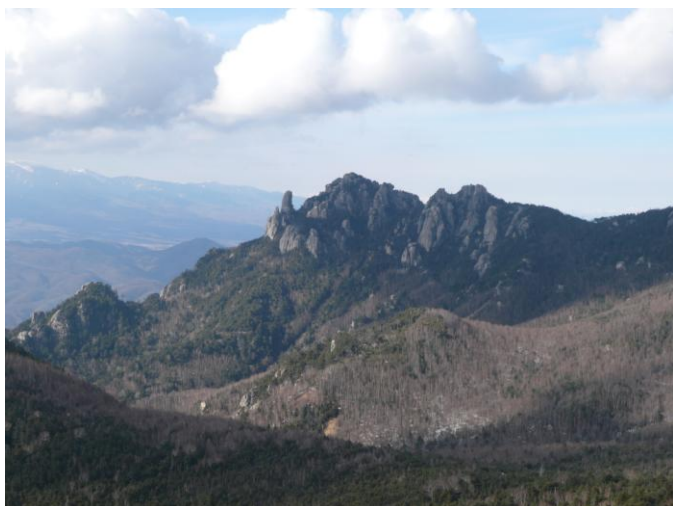
ここから稜線沿いに進む。2万5千分の1地図には稜線のやや東に道が書かれている、ルートは大きな岩が並ぶ稜線の西側を通っている。



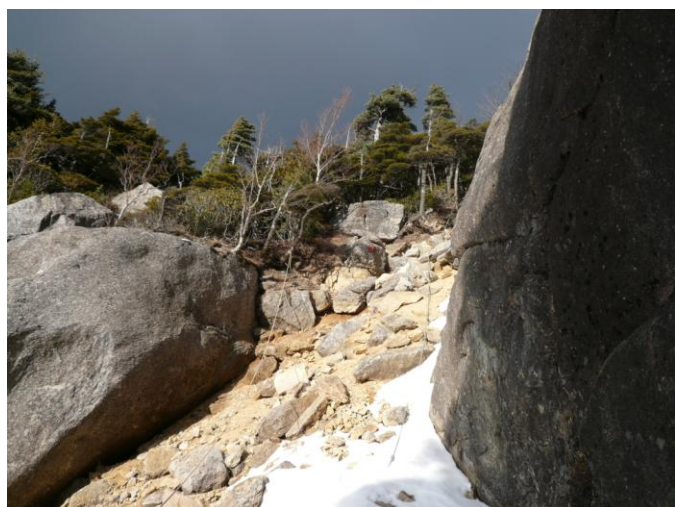
赤ペンキでマークが付けてある



道は岩場の西側を巻いている

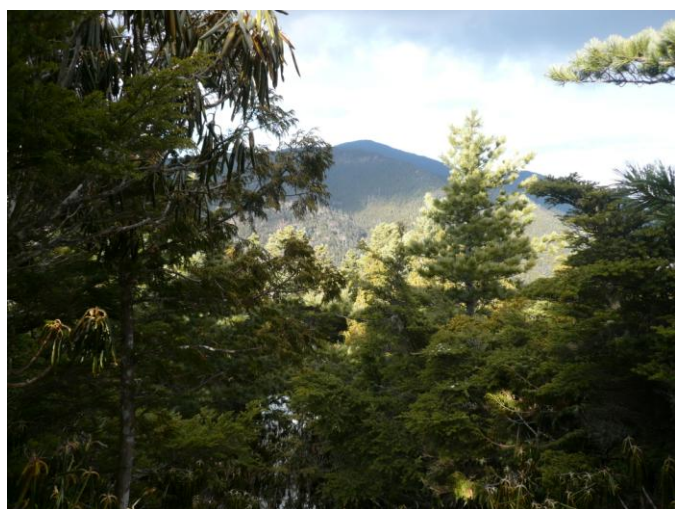
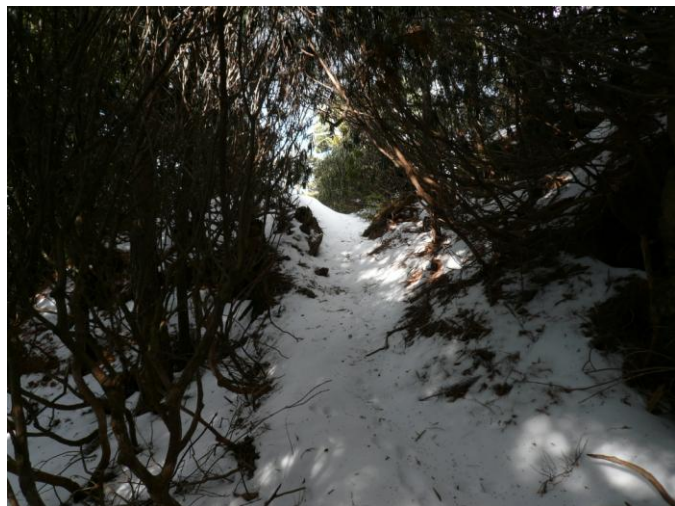


この日登って来た瑞牆山





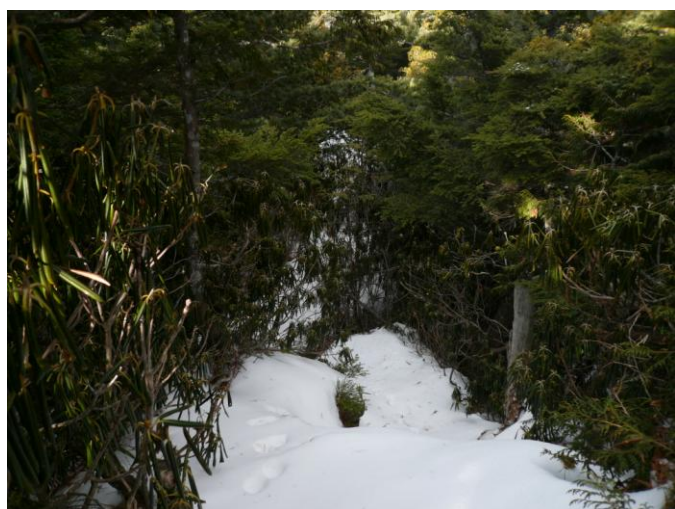
やがて大きな岩がなくなり、シャクナゲの密生する樹林となった。相変わらず雪は少ない。



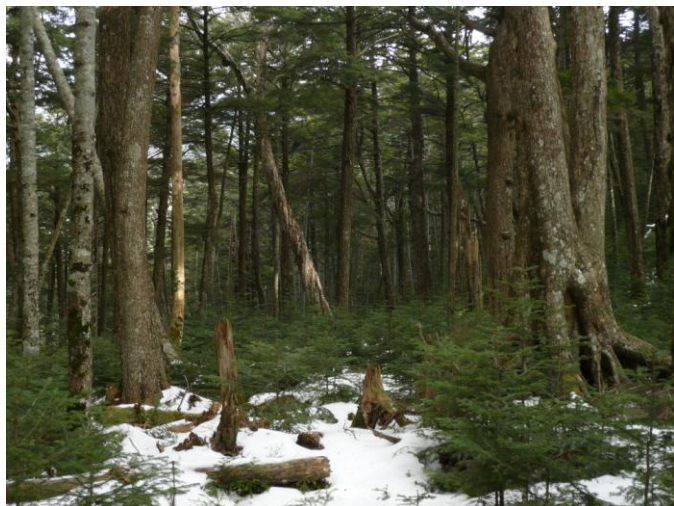
小川山



道ははっきりしており、マーク（右の赤テープ）がたくさんつけてあって、全く迷うようなところはない。



雪は深いところでも 20cm 程度。ラッセルを覚悟してワカンを持参したが、拍子抜けだった。



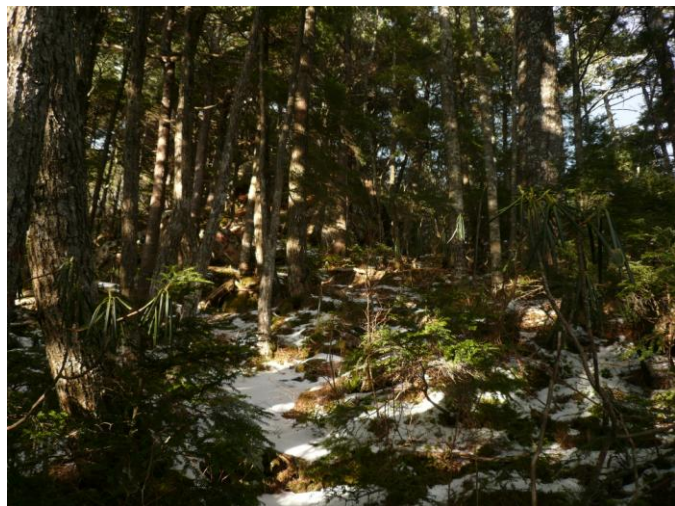
立派な道標も。しかし、この道は山と高原地図には載っていない。



針葉樹の原生林。ここも道ははっきりしているが、人が歩いた痕跡はなかった。ずっと原生林の中を縦走してきたが、小川山周辺はさらに森が深くて原始的な雰囲気を感じているように感じる。



八丁平。テントを張るのに好きそうな場所だったが、まだ時間が早いので先へ進むことに。



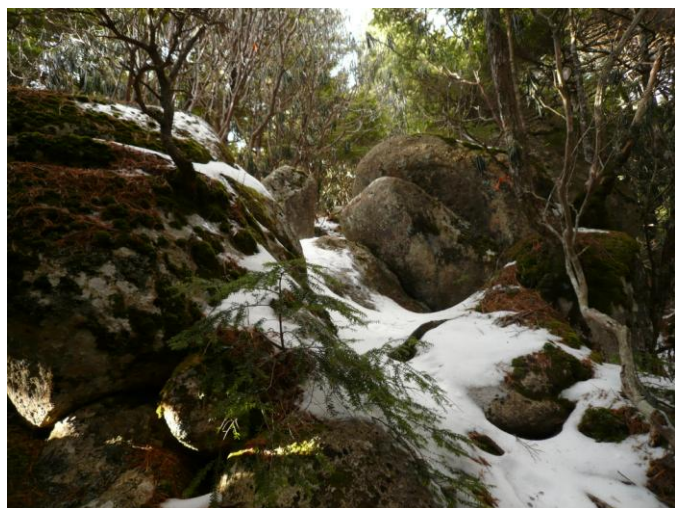
八丁平から、小川山の南尾根を登る。



これも道しるべのマーク。横から見るとかわいいが、正面から見るとちょっとグロテスクだった。

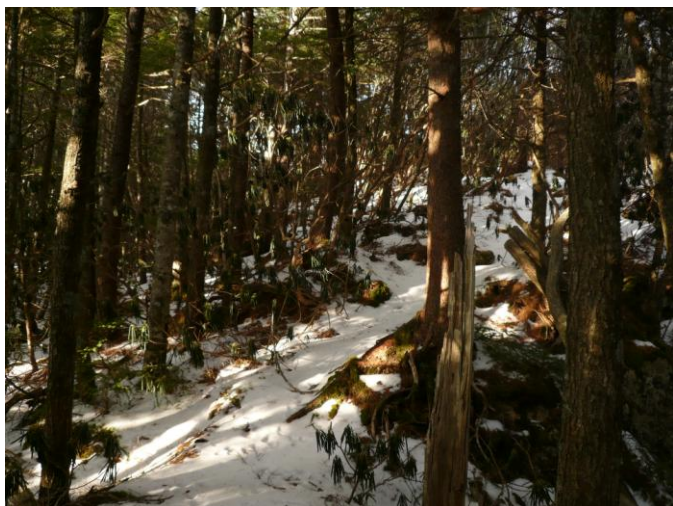
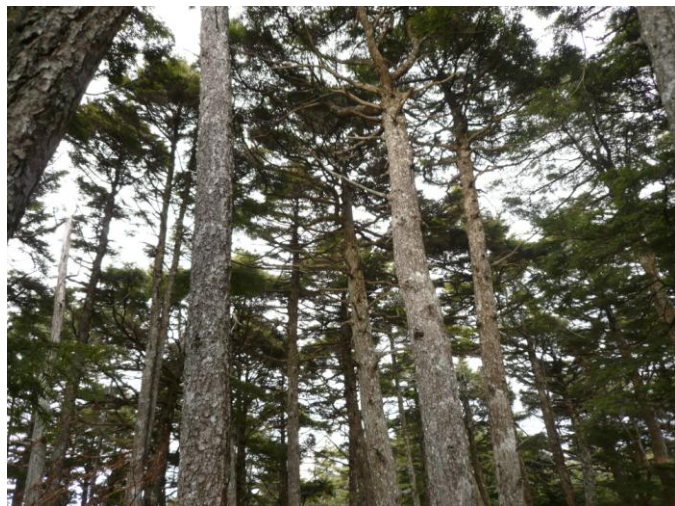


倒木が多く、歩きにくい。





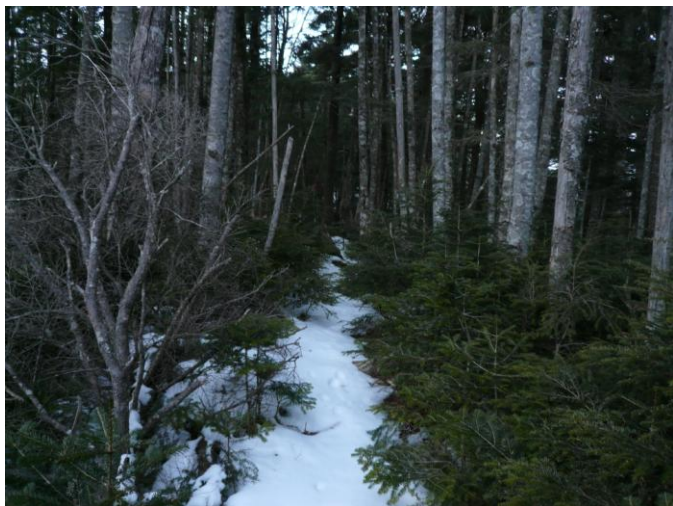
シャクナゲが多く、ところどころ藪になっているところも。



天気図をつける後藤。



テントを張るのに好さそうな場所を探しながら進む。



標高 2270m 地点(小川山から 1.5km 地点)は尾根が広く、テントを張れるスペースがあった。荷物を置いて少し先を偵察したが、これ以上いい場所は無かったので、ここで幕営することになった。深い原生林の中で、この6日間に渡った奥秩父縦走最後の晩を過ごした。